

## あかしSDGs後期戦略計画の策定に向けた取組について

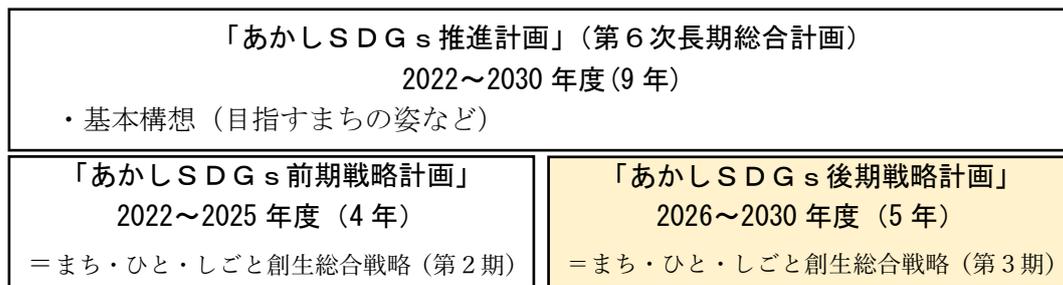
あかしSDGs前期戦略計画が2025年度までの計画であることから、現在、次期計画であるあかしSDGs後期戦略計画の策定に向けて、取組を進めています。

については、現在の取組状況と今後の取組予定について報告します。

### 1 あかしSDGs後期戦略計画の位置づけ

本計画は、あかしSDGs推進計画（明石市第6次長期総合計画）に基づき2030年のあべき姿「SDGs未来安心都市・明石」の実現に向けたまちづくりの戦略を定める中期計画です。

また、総合計画とまち・ひと・しごと創生法に基づくまちづくりを一体的かつ効率的・効果的に推進するため、まち・ひと・しごと創生法に基づく地方版総合戦略に位置づけます。



### 2 現在の取組状況

	市民参画等	市議会
2024年12月～ 2025年1月	○市民意識調査 ・18歳以上の市民5,000人対象 (内、2,000人は過去5年の転入者)	
2025年3月		□総務常任委員会 ・市民意識調査結果 ・今後のスケジュール
2025年5月	○第1回あかしSDGs推進審議会(5/22) ・前期戦略計画の検証 ・後期戦略計画の骨子(案) ○オンラインによる常設型の意見聴取フォームの開設(5/23～)	
2025年6月		□総務常任委員会 ・前期戦略計画の検証 ・後期戦略計画の骨子案 ・今後のスケジュール

### 3 あかしSDGs前期戦略計画の検証

#### (1) まちづくりの数値目標

【総人口】			【住みやすいと思う人の割合】		
当初値 (2019年)	目標値 (2025年)	実績値 (2024年10月)	当初値 (2019年)	目標値 (2025年)	実績値 (2025年1月)
299,094人	300,000人	306,453人	91.2%	95.0%	91.0%

※【参考資料】あかしSDGs前期戦略計画の検証について

#### (2) 前期戦略計画の検証に係る審議会での主な意見

##### ① デジタル化による行政情報のアクセス性の向上

- ・市の公式LINEの開設やホームページのリニューアルによって、行政情報へのアクセシビリティが大きく向上し、市民にとって利便性が高まった。

##### ② 地域コミュニティの低下、担い手不足

- ・自治会加入率が年々低下しており、自治会への参加意識は、世代間で大きな差が生じている。特に、若年層の意識が低く、自治会における役割分担や負担の在り方を見直す必要があるのではないか。
- ・自治会のみならず、PTAや各種団体などにおいても加入率の低下が見受けられ、担い手となる世代の敬遠が見受けられる。
- ・自分たちが住んでいる地域を良い状態に保つため、自治会が苦勞しながら取組を進めており、若い人たちには、他人事ではなく、自分ごととして捉えてほしい。
- ・防災や地域の見守りなど、自治会の必要性やメリットを整理して、未加入者に働きかけができるよう取り組む必要がある。
- ・登校時の見守り活動を通じて、保護者同士に新たなコミュニティが生まれ、こうした取組をきっかけにまちづくりへの参画意欲が自然発生的に生まれることが望ましい。

##### ③ こどもを核としたまちづくり

- ・明石の子育て施策については、多くの負担軽減となっており本当に感謝している。
- ・子育て世代の人口流入など、現在の好調な明石のまちの状況を継続するためにも、引き続き、こどもを核としたまちづくりを重点的に推進してもらいたい。
- ・各企業で育児支援制度を取得しやすい環境づくりや兄弟が同じ保育所に通る配慮など、優秀な女性がキャリアを継続することができるようきめ細かな施策の推進を求める。
- ・こどもの貧困は身近に存在しており、こども食堂への支援など、こどもの貧困対策についてさらなる強化に取り組むべきである。

##### ④ インクルーシブ施策の推進

- ・障害当事者の声を様々な施策で反映いただけていることにとっても感謝している。
- ・SDGsの理念からもインクルーシブ教育のさらなる推進を求める。

##### ⑤ 持続可能な財政運営

- ・市役所新庁舎や新ごみ処理場のほか、市民病院や卸売市場、旧市立図書館跡地など、将来の人口減少を見据えた事業の必要性や費用対効果の検証など、十分に検討して持続可能な財政運営を目指す必要がある。

#### ⑥ まちの魅力やにぎわいの創出

- ・本のまちづくりについて、新しい図書館ができ、本に触れる機会や場所が増えたことは大変うれしい。単に本を読み、借りるだけでなく、図書館や本を通じた新たな出会いやコミュニティが生まれる取組を推進してほしい。
- ・古い家が空き家として放置されていくことは課題である一方で、SDGsの理念からも古い家を生かした新たな住まいづくりを推進していく必要がある。

#### ⑦ 新たな環境問題への対応

- ・PFAS問題など、従来とは異なる新たな環境課題に引き続き的確に取り組み、安全対策に関する情報発信に努めてほしい。

### 4 あかしSDGs後期戦略計画の骨子（案）

#### (1) 計画の構成

- ・あかしSDGs推進計画に示す2030年のあるべき姿「SDGs未来安心都市・明石」の実現に向けて、前期戦略計画と同様に、三側面のまちづくりの方向性に基づき、施策展開の柱と対応するSDGsのゴールを定めます。また、施策展開の柱ごとに優先的に取り組む具体的な施策を定めます。
- ・また、まちづくりの推進状況を図るため、まちづくりに関する数値目標及び各展開の方向の数値目標（KPI）を定めます。

#### (2) 計画期間

2026年度～2030年度（5年間）

#### (3) まちづくりの数値目標

##### 2030年度の目標

- ① 住みやすいと思う人の割合 100%  
(2025年：91.0%)
- ② 総人口 30万人の維持  
(2024年10月1日現在：306,453人)

#### (4) 施策展開の方針 ※          は、前期戦略計画からの変更点

##### ① 施策展開の5つの柱

1	豊かな自然と共生し、暮らしの質を高める
2	笑顔あふれる共生社会をつくる
3	こどもの育ちをまちのみんなで支える
4	安全・安心を支える生活基盤を強化する
5	まちの魅力を高め、活力と交流を生み出す

② 展開の方向

1	脱炭素社会の実現 (地球環境)
	循環型社会の実現 (ごみの減量) (5R)
	自然環境の保全と活用 (環境保全) (生物多様性)
2	支え合う地域づくり (地域コミュニティ・福祉) (生涯学習)
	自分らしく生きることができる社会づくり (高齢者) (障害者) (ジェンダー・LGBTQ+/SOGIE) (人権)
	健康・長寿の推進 (健康) (医療) (スポーツ)
3	安心して子育てができる環境の整備 (妊娠・出産支援) (子育て支援) (待機児童対策) (放課後児童クラブ)
	一人ひとりに応じた質の高い教育の推進 (教育環境) (学力・体力) (豊かな心) (地域ぐるみ)
	こども・若者への状況に応じた適切な支援 (児童虐待防止) (貧困対策) (養育支援) (居場所)
4	防災・感染症対策の強化 (防災) (感染症対策)
	日常の安全・安心の確保 (消防・救急) (防犯) (交通安全)
	誰もが利用しやすく安全で強靱な都市基盤の整備 (バリアフリー) (均衡ある発展) (公共交通) (道路) (住宅) (公園) (水道) (下水道)
5	地域産業の振興 (農水産業) (商工業) (中小企業) (雇用環境)
	豊かな心を育む文化・芸術の推進 (本のまち) (文化・芸術・歴史) (景観)
	まちの魅力を生かした賑わいの創出 (シティセールス) (観光)

### ③ 計画の推進

1	効率的・効果的な行政運営
①	市民目線のまちづくり (タウンミーティング) (他自治体・企業・大学との連携) (SDGsの啓発)
①-1	対話と共創
①-2	SDGsの更なる推進
②	持続可能で自立した行政経営 (組織・人員体制) (DX) (権限移譲) (新庁舎の整備) (歳入・歳出の適正化) (施設配置の適正化)
②-1	持続可能な公共サービス体制の実現
②-2	自治体DXの更なる推進
②-3	健全財政の推進
2	計画の進行管理

### (5) 後期戦略計画骨子(案)に対する審議会での主な意見

#### ① まちづくり協議会の役割と支援

- ・明石のまちづくり協議会は、全ての小学校区に設置されており、その活動状況は全国でトップクラスであり、地域におけるまちづくりの中心的な役割を果たしてきた。自治会への加入率低下など地域コミュニティの課題が指摘される中で、その機能を果たし続けていけることできるよう、まちづくり協議会の位置づけと支援策を後期戦略計画に記載すべきである。
- ・共創という視点で、より効果的にまちづくりを展開する観点から、まちづくり協議会と各団体が連携した取組を推進していく必要がある。

#### ② 市民主体・市民全員参加型のまちづくりの推進

- ・「市民目線」という表現は、行政が市民視点に基づいてまちづくりを進めるという意味に留まることから、例えば、「市民主体のまちづくり」や「市民全員参加型のまちづくり」などに表現に改め、地域への愛着や市民が主体的に地域で活動する姿等を表す表現に変更すべきである。
- ・多様な市民参画を促進するためには、タウンミーティングなどの対話の場の充実が重要ではあるが、参加者の拡大と寄せられた意見に対する施策反映のプロセスを可視化することで、市民の主体性を醸成できるのではないかと考える。

#### ③ 安全・安心のまちづくりの強化

- ・近年の気候変動に伴う災害リスクの高まりを踏まえ、防災・減災対策の強化が必要であり、自助・共助の推進を計画に盛り込むべきである。具体的には、避難支援体制の構築や地域の防災活動の推進などが重要と考える。

- ・犯罪の抑止や交通安全など、市民の安全・安心をどのように確保していくのか計画に示す必要がある。

#### ④ 質の高いインクルーシブな教育の推進

- ・明石市はインクルーシブ条例を制定し、インクルーシブ教育を推進していくことを掲げているが、前期戦略計画上には記載がないため、後期戦略計画ではきちんと明記すべきである。

#### ⑤ コンパクトシティのまちづくり

- ・都市計画マスタープランや交通総合計画などにおいて、コンパクトシティの考え方が示されている。明石市においても将来的に人口減少を迎えることとなることから、行政サービスの集約化と施設整備の方向性を本計画の中で記載すべきと考える。
- ・市内には、官民間わず、様々な機能を持った施設が立地しており、こうした施設の機能統合や連携を図るなど、施設の適正配置をより一層進める必要がある。

#### ⑥ ウェルビーイングの視点の反映

- ・現代社会において、心の豊さを表すウェルビーイングを追求する視点が求められてくると考えられるので、後期戦略計画においてもウェルビーイングの観点を取り入れるべきである。

#### ⑦ 子育て支援の更なる拡充

- ・こどもを核としたまちづくりの先にある様々な課題に対応するため、こどもを育てながらも女性が働きやすい環境の整備やこども・若者の貧困対策の重要性を位置づけるべきである。

#### ⑧ 住みたい、住み続けたいまち明石の実現

- ・子育てを終えてもなお、明石市に住みたい、住み続けたいと思えるまちづくりに取り組むことが重要で、大学や就職等で明石を離れても、また帰ってくるができる魅力ある、働きがいのある明石を考えていく必要がある。
- ・高齢者の方が残された人生を明石で終わりたいと思えるよう、高齢者にも魅力あるまちづくりを展開すべきである。

#### ⑨ K P I の設定

- ・「循環型社会の実現」に向けて、市民一人一日当たりのごみの排出量をK P Iとして設定しているが、市民の取組を推進する観点から家庭系ごみと事業系ごみを分けてK P Iを設定すべきである。
- ・「計画の推進」においては、K P I が設定されておらず、多様な市民参画に基づく取組の進捗を把握するため、新たに障害当事者の審議会委員への登用や女性委員の割合など市民参画条例やジェンダー平等条例に基づく取組をK P Iとして設定してはどうか。

## 5 今後の予定

	市民参画等	市議会
2025年6月	○タウンミーティング（6/26） 【無作為抽出による市民対象】 ○オンラインによる常設型の意見聴取フォーム（5/23～）	□総務常任委員会（6/24） ・前期戦略計画の検証 ・後期戦略計画の骨子案 ・今後のスケジュール
2025年7月	○市民ワークショップ（7/12） 【一般市民対象】 ・5つの分野ごとのまちづくりの方向性や必要な施策、取組	
2025年8月	◆第2回審議会 ・後期戦略計画（素案）	
2025年9月		□総務常任委員会 ・後期戦略計画（素案）
2025年10月	○パブリックコメント（第1弾） ・市内各団体への案内	○議会各会派への意見聴取
2025年11月	◆第3回審議会 ・後期戦略計画（案）	
2025年12月		□総務常任委員会 ・後期戦略計画（案）
2026年1月～ 2月	○パブリックコメント（第2弾）	
2026年3月	○後期戦略計画策定、公表	□総務常任委員会 ・後期戦略計画（最終案）

### ○タウンミーティング【無作為抽出による市民対象】

日時：2025年6月26日（木）18時30分～20時30分

場所：ウィズあかし フリースペース

内容：まちづくり市民意識調査を振り返りながら、「明石の今、そしてこれからの明石」について深堀する。

### ○市民ワークショップ【一般市民対象】

日時：2025年7月12日（土）14時～16時

場所：明石市役所南会議棟2階旧食堂スペース

内容：施策展開の5つの柱ごとに各分野の進むべき方向性や今後のまちづくりに必要な施策や取組について深堀する。